

1. 研究課題名：  
災害廃棄物分別土砂・篩下残渣の物性評価と、  
戦略的有効利用に向けた基準化

2. 研究代表者氏名及び所属  
勝見 武（京都大学 地球環境学堂）



3. 研究実施期間：平成 25～27 年度

#### 4. 研究の趣旨・概要

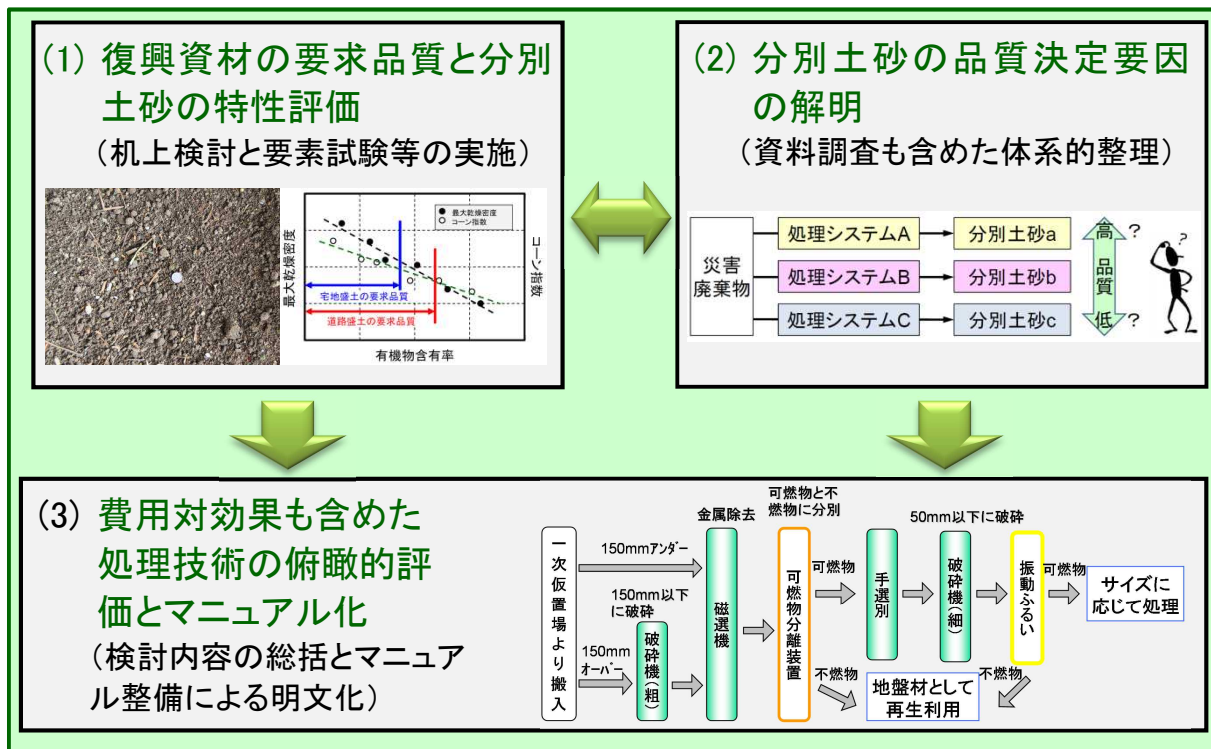
災害廃棄物の復興資材としての有効活用は、東日本大震災からの復興における重要な施策として位置づけられる。災害廃棄物は可燃・不燃ごみと混合状態になった土砂を相当量含んでいるため、この土砂分を分別処理した分別土砂の戦略的な再資源化・有効を推し進めることが重要である。

本研究では、実際の処理過程から排出される分別土砂の地盤材料特性を一斉試験によって体系的に評価し、適切な用途の抽出と用途毎の要求品質の照査を行う。さらに適用されている処理システムと材料特性の関係を解明し、所要の材料品質を満足しうる処理システム構築に向けた知見の体系化を行い、将来の大規模災害発生時の災害廃棄物処理に資するマニュアルの提案を行う。

#### 5. 研究項目及び実施体制

- ① 分別土砂の特性評価と復興資材としての要求品質の明確化（京都大学、東北工業大学、東北大学、茨城大学、名古屋大学、岐阜大学、岡山大学、香川高等専門学校、香川大学、長崎大学、福岡大学、国立環境研究所）
- ② 分別土砂の品質決定要因の解明と合理的な処理スキームの確立（岩手県、東北工業大学、東北大学、岩手大学、産業技術総合研究所）
- ③ 災害廃棄物への対応に関するマニュアル整備（京都大学、岩手大学、岩手県、産業技術総合研究所、国立環境研究所）

## 実施項目



## 成果

1. 分別土砂の特性評価と復興資材としての要求品質の明確化
2. 分別土砂の品質決定要因の解明と合理的な処理スキームの体系化
3. 災害廃棄物の撤去から処理、適用までのマニュアル整備

## 期待される効果

- ✓ 分別土の利活用促進による最終処分量の低減
- ✓ 災害時に迅速な対応を可能にする知見の後世への継承